

チーム えがお



《学校教育目標》『自ら学び 心優しく たくましく生きる児童の育成』
 ☆「かしこく」自ら学ぶ子 ☆「やさしく」心豊かな子 ☆「たくましく」やりぬく子

発行者:校長 岡田 達也

～ えがお かがやき かんばる 学校 おうえんだん 「チーム北川」～

学芸会

自分なりのがんばる理由を大切に!



11月19日(土)は、学芸会本番です。今、学校では、子どもたちと教師が一緒になって、最高の学芸会にするためにがんばっているところです。自分たちの劇をよりよいものにするには、そう簡単なことではありません。演じることが得意な子ばかりではなく、人前で演じることが恥ずかしい子や思った表現がなかなかできない子など、いろいろな思いをもって練習に取り組んでいます。

昨日の音楽朝会で、全校で「学芸会の歌」の練習を行いました。

週初めの月曜日のせいか、歌う隊形への移動や歌う多くの子どもたちの姿には、真剣さや一生懸命さ、何かを伝えようという思いなどはあまり感じられませんでした。その姿を見ながら私は、「子どもたちにとって学芸会ってなんだろう?」と考えてしまいました。その場にいた先生たちも同じ気持ちでした。学芸会のテーマは、「虹のかなたへとどけ みんなが主役の学芸会」なのですが……。そのあと、子どもたちにこんな話をしました。「学芸会は毎年やってきます。でも、今の学年で、今の仲間(友達や先生)とできる学芸会は、今しかありません。この学芸会で、自分は何をがんばるのか、みんなで何をがんばるのかをもう一回しっかり考えてほしいと思います。やるのは、みんなです。」子どもたちは、私の話を真剣に聴いていました。

学芸会は、学校行事の一つであり、子どもたちを成長させるための教育的価値があります。教師側からすると、①表現する喜びを味わわせる、②協力することの大切さに気付かせる、③互いに認め合う態度を育てる、といったものです。でも、演じるのは子どもたちです。その意味を私たち教師が子どもたちにきちんと伝え切れていたのか、学芸会で劇を演じるために必要な多くの力を育ててきたのか、私たち指導する側もいろいろなことを反省する機会となりました。

演じることが上手かどうかよりも、子どもたち一人一人が演じる意味をしっかりと自覚して取り組んでいるか、学級集団としてどのように成長していきたいのかをみんなで共有しているか、ということの方が大事です。自分なりの「目的」や自分たちの「求める姿」をしっかりと意識できれば、それに向かって努力しやすくなります。学校教育としての学芸会では、自分なりの、自分たちのがんばる理由、演じる理由が必要だと思います。

学芸会に向けて、子どもはもちろんのこと、教師も、いろいろと悩みながらがんばっています。作品に込められたテーマを観ているみなさんにどうしたら伝えることができるのか、そのために自分の殻を破ろうと、自分たちの力を高めようと、試行錯誤しながら練習に取り組んでいる毎日です。学芸会本番に向けて、演技の上手さだけを問題にするのではなく、子どもたち一人一人に、学級集団に、どんなことをしっかりと学んでほしいのかという教育的価値を大切にしながら指導していきたいと思います。子どもたちが、「がんばる理由」をきちんと自覚して、最後まであきらめずにがんばれるように。そうすることが、学芸会のテーマ『虹のかなたへとどけ みんなが主役の学芸会』につながると信じて!

そして、昨日の6校時には、学芸会の係の打合せを行いました。いろいろな係で学芸会本番を支えてくれるのが高学年の子どもたちです。進行係、放送係、記録係、照明係、準備係、会場係と、どの係も欠かせないものです。学校行事においては、常に「縁の下の力」的存在が高学年です。子どもたちは、学芸会を成功させようと、とても真剣に打合せに臨んでいました。

保護者のみなさんには、これまで学芸会衣装の準備やお子さんの心身のサポート等で、たいへんお世話になったことと思います。本当にありがとうございます。あと少し、よろしく願いいたします。

